

研究タイトル:

北海道の遺跡から出土したガラス玉の化学分析



氏名: 中村 和之 / NAKAMURA Kazuyuki E-mail: nakamur@hakodate-ct.ac.jp

職名: 教授 学位: 文学士

所属学会・協会: 史学会, 東洋史研究会

キーワード: アイス, 交易, ガラス玉, 鉛ガラス, ソーダ(アルカリ)ガラス

技術相談

提供可能技術:

研究内容: 平取町から出土したガラス玉の化学分析

北海道の遺跡からはガラス玉が発見されている。日本語とロシア語の文献からは、ガラス玉の流入について二つの可能性が指摘されている。ひとつは本州からもたらされたとするもの、もう一つはアムール河下流域からサハリン島(樺太)を經由して北海道にもたらされたとするものである。文献史料による検討には限界があり、筆者はガラス玉の産地を明らかにするために、別な方法を試みることにした。筆者は、エネルギー分散型の X 線分析装置(EDX)が付属した走査型電子顕微鏡(SEM)を用いて、北海道で発見されたガラス玉の化学分析を実施した。平取町の続縄文文化と擦文文化の遺跡からは、ソーダ(アルカリ)ガラスが発見されている。鉛ガラスが、中世から 1667 年までの遺跡から発見されており、ソーダ(アルカリ)ガラスが 1667 年以降の同じ遺跡から発見されている。



提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)